

分野：地球温暖化

(土砂災害の起こるしくみから防災を考える)

環境アドバイザー

福田 直

対象 狭山市立柏原小学校 4年(27人)

所要時間



45分

場所 狭山市立柏原小学校

実施時期

令和3年10月26日

概要

出前授業「土砂災害の起こるしくみから防災を考える」

プログラムの ねらい

土砂災害発生のしくみを科学的に捉えて、防災の意義を深く考え、学ぶ。地球温暖化が進行する中、自然災害からの防災の意義について考える。

プログラムの内容

1 導入(3分)

授業の目的・概要説明、大雨・洪水・土砂災害の様子(パワーポイント)、国土の成り立ちと自然災害の説明

2 展開(40分)

(1) 観察・実験

観察1「土壌モノリスの観察」、観察2「砂と土(表土・下層土)の違い(五感)」、実験1「重量の異なる物体が滑り出す時の斜面の高さの測定」、実験2「土砂が大雨によって斜面を流れ出すモデル実験」

(2) グループ討議・まとめ・発表

観察・実験から明らかになったことをまとめ、防災に重要なこと、災害時にどのように行動すべきかを話し合い、まとめる。

代表者が発表する。質疑応答する。

3 まとめ(2分)

防災の科学的根拠、温暖化と防災などを解説する(パワーポイント)。

受講者の反応

観察・実験のまとめ、ハザードマップや土砂災害の前兆現象、雨量と災害発生状況などを参考にしながら、防災についてのグループ討論、質疑、まとめ、発表などを真剣に行っていた。授業後の自由記載文から、多くの児童らは土砂災害発生のしくみを科学的に捉えて、防災の意義を深く学んでいたことが伺えた。

環境学習の様子（写真） ※表面に写真を掲載している場合は不要

